

# 中町商店街

(中町商店街振興組合)

長野県松本市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

## 店頭サインの作成や工夫を凝らした「中町・日本文化体験デー」で外国人観光客の満足度100%を達成！

### 基本データ

所在地	長野県松本市中央
人口	約24万人(松本市)
電話/FAX	0263-36-1421 / 0263-36-1421
URL	http://nakamachi-street.com/
会員数	127名
店舗数	127店舗(小売業47店、飲食業41店、サービス業10店、金融業1店、不動産業2店、医療サービス業4店、その他22店)
商店街の類型	観光型
主な客層	国内観光客、外国人観光客/40歳代、50歳代

### 商店街概要

長野県松本市は400年に及ぶ城下町。中町通りは西から東へ抜ける善光寺街道沿いにあり、酒造業や呉服などの問屋が集まり繁盛してきた。江戸末期や明治期に大火に見舞われたことから、「なまこ壁の土蔵」が造られ、今なお多く残っている。民芸・工芸などの店が集まり、独特の町並みを形成している。

「蔵のある街 中町」として、電線の地中化等の街並み整備事業を行っているほか、現在では若手経営者も増え、飲食店、クラフト系の個性的な店舗が揃ってきている。国宝松本城の存在や、毎年夏に約1ヵ月間開催されるセイジ・オザワフェスティバルを目的に、外国人観光客も増えてきている。

### 取組の背景

#### 近隣観光地からの誘客が課題

中町商店街は、松本駅から近く、松本城など近隣に観光地も多いことからメディアによく取り上げられている。街路には蔵・湧水等の景観が整備され、個性的な店が多く、若い出店者も増え空き店舗も少ない。商店街としても駐車場の運営や活性化委員会の立ち上げなど、共同事業に注力しており、まちづくり推進協議会や行政との連携も活発に行ってきた。

しかし、恵まれた立地条件を踏まえると近隣の観光地から十分に誘客できているとまでは言えず、店同士や近隣観光地との連携や情報共有、タイムリーな情報発信ができていなかった。

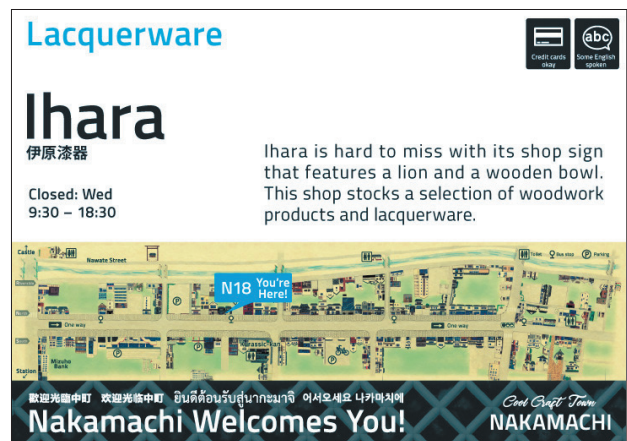
これらの現状を踏まえ、集客力アップのために、商店街組織内外との連携、近年増加傾向にある外国人観光客へのおもてなし対応、情報発信としてのメディア活用などを取り組むべき課題として考えた。

### 取組の内容

#### 地域と連携して「日本文化体験デー」を開催

多くの外国人観光客が訪れる中で、本格的なインバウンド対策の見直しが求められていた。そこで、まずは外国人観光客の受入体制を整えるため、英語版の商店街ガイドマップと店頭サインを作成し情報発信を開始。店頭サインには商店街統一アイコンのほか各店舗の取扱い商品やサービスを記載し、多言

語にて「Nakamachi Welcomes You!」といった文言を記載することで、外国人観光客が店に入りやすいようにした。また、街歩きの利便性を高めるため「You're Here!」と現在地を明記した。



店舗前サイン

さらに、毎年夏に開催されているセイジ・オザワフェスティバルに合わせ、明治時代に建てられた造り酒屋を再利用した「蔵シック館」を中心に「中町・日本文化体験デー」を開催(平成29年9月)。「蔵シック館」では、お点前、書道、扇づくり、折り紙、太鼓、昔遊び(竹馬・こま回し・けん玉・お手玉など)の体験、周辺地域では、日本酒、着物、忍者、人力車の体験、商店街内の店舗ではそれぞれの店の特徴を生かした体験(日本茶サービス、三味線、お座敷遊び、箸で豆つかみ取りゲーム、本わさびのすりお

ろし体験、商店街オリジナルの地酒・甘酒試飲、下駄の試し履き、蔵の見学)ができる。イベントに参加した外国人観光客に渡すアンケート用紙には折り紙を付けたり、記念品として商店街オリジナルのマスキングテープを進呈するなどして、最後まで楽しんでもらえるよう工夫を凝らした。また、昔遊び体験では、けん玉などを土産として買って帰りたいという外国人もあり、商店街店舗での購入にも結び付いた。

さらに、このイベントでは地元高校との連携も実施。松本県ヶ丘高校英語科の生徒40名が、授業の一環として、事前準備や、外国人観光客の体験プログラムの運営補助作業、アンケート記載時の支援を行った。当商店街と高校が連携するのはこれが初めてだったが、生徒に商店街というまちなかで外国人観光客との英語によるコミュニケーションを体験してもらうことができ、地域貢献の役割も果たすことができた。



「日本文化体験デー」の様子

## 取組の成果

**「体験プログラムに満足した」率100%!**

「中町・日本文化体験デー」は、平成29年9月

## キーパーソンからのコメント



中町商店街振興組合  
理事長  
佐々木 一郎 (写真右)  
専務理事 清澤 進  
(写真左から5人目中央)  
活性化委員会委員長  
花岡 由梨 (写真下左)

### 活性化委員会の役割とコミュニケーション強化

今までの委員会会議では、多くの意見が出てそのまま流れてしまうことも多かったのですが、メンバーを4つの班に分け、班長を設けることで、具体的な活動ができるようになりました。

トータルプラン作成支援事業ではワークショップ形式で全体会を数回行い、中町の良いところや課題など様々な意見をみんなで共有・共感でき、有意義な活動だったと感じています。

### 温故知新でインバウンド対策

おかげさまで中町には日頃から多くの来街者があり、空き店舗も少なく、恵まれているように思います。それに甘んじること無く新しいことへのチャレンジとして「日本文化体験デー」を開催しました。商店街内外と連携をとり、中町に来てくれた外国人の方に日本文化を体験していただきましたが、笑顔で楽しんでいただけたことは商店街として良かったと思っています。これを次につなげられるよう取り組んでいきたいと思っています。

6日(水)と9月23日(土)に開催したが、外国人観光客の参加目標計150名に対し、結果は延べ人数計629名であった。また、体験参加者に対して行った満足度調査では、外国人回答者の100%が「体験プログラムに満足した」と回答した(回答数138名)。

今後の課題としては、外国人観光客の商店街内での回遊性をさらに高め、個店への誘導を強化することが必要である。また、組合組織内における新リーダーの育成による世代交代を行い、体験プログラムの有料化の検討など収益を上げられる事業を地域で連携して継続すること、それにより地元顧客のさらなる開拓と地元への貢献を果たすことなども求められている。

## 実施体制

商店街では、株式会社全国商店街支援センターの平成28年度トータルプラン作成支援事業を活用しており、活用当初から組合内部でインナーキャンペーン(情報共有の推進、逸品考案、勉強会等の実施など)を継続し、情報共有の仕組みをしっかりと根付かせている。既存の活性化委員会に加え、情報交換会等を定期的で開催し、内部間で成功・失敗談、工夫などを聞く機会を設けることで、ともに学び各個店としての集客や売上の向上につなげている。

今後の事業継続のために、「中町・日本文化体験デー」の体験プログラムについては収益を上げる事業としての継続を目指している。また、マップ制作費などとして参加料を受益者負担する仕組み作りも検討していく。